

子どもの本

研究会



【私の一冊】

『ルピナスさん』—小さなおばさんのお話—

バーバラ・クーニー さく かがわ やすこ やく

ほるぷ出版

梅田恵子

「大きくなったら、とおいくににいつて、かえってきたら、海のそばにすむわ」

「それはけっこうだね、アリス、でも、もうひとつしなくてはならないことがあるよ」

「なあに？」

「世の中をもっとうつくしくするためになにかしなくては」

これは絵本「ルピナスさん」の主人公、ミス・アリス・ランファイアス（ルピナスさん）がおばあさんになって姪と交わした言葉であり、ルピナスさんが幼い頃、おじいさんの膝の上で約束した言葉でもあります。

それにしてもバーバラ・クーニーの絵はとても美しい！

パステルカラーの色彩の移り変わりに一女性の人生を表現していて、私には自分と重ね合わせてたどることができました。人生の後半に入り「世の中をもっと美しくするために何かしましたか？」と問われている気がしてこれまでを振り返ってみると、母として妻として日常を引き受け、ただただ日々を丁寧に生きることに関心する自分の人生の意味や価値を見出してきましたが、それだけでは、《世の中をもっと》にはとても届かない、そしてそれだけが私ではない気がします。

母でも妻でもない、様々な縛りから解放されたオリジナルな自分になって、この世に生まれた者として今一度「世の中をもっと美しくするために何をするのか」を考えたいと思います。

村をルピナスの花でいっぱいにしたミス・アリス・ランファイアス。

私はなんの種を蒔こうか。

（熊本子どもの本の研究会 会員）